



非認知能力の育成

校長 神田 朋恵

10月は、子どもたちの成長を肌で感じられる行事が続きました。上旬に修学旅行、下旬に館岩少年自然の教室を引率しました。5、6年生共に大宮別所小学校の代表であるという自覚をもって行動しており、頼もしく感じるとともに、その頑張りに胸が熱くなりました。

特に館岩少年自然の教室は、親元を離れての初めての宿泊学習であり、活動面だけでなく生活面においても自ら考え、行動する多くのハードルがありました。しかし、子どもたちは友達と協力し、互いに声を掛け合いながら、一つ一つの課題を乗り越えていきました。

近年、全国学力・学習状況調査の分析等により、テストの点数だけでは測れない「非認知能力」が学力と深く関連していることが分かっています。新学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」も該当します。自制心や忍耐力、意欲、協調性などが、いわゆる学力を伸ばす上で非常に重要であり、将来の人生の成功や幸福度にも大きく関わるとさえ言われています。

館岩自然の教室に向けて行った事前アンケートでは、「ルールやきまりを守る規範意識」や「誰にでも挨拶ができること」が、市平均を上回る5年生の長所であることが明らかになりました。一方で、「おや、なぜ、どうしてと疑問をもったり、何かできることはないかなと考えたりしていますか」という**課題・発見の項目**や、「自分でもやれる、自分もみんなの役に立っていると思いますか」という**自尊感情の項目**に課題が見られました。

そこで、引率中は特にこの2点に焦点を当て、担当教員皆で「どうしてこうなるのかな?」「どうすればもっとよくなるかな?」「次はどう動けばいいかな?」と自ら考える声かけや、友達や先生から褒められたり感謝されたりする場面を意図的に設けるようにしました。「失敗しても大丈夫だよ。取り返すチャンスはあるよ。」「よく頑張ったね。」「素晴らしい!」「手伝ってくれた人たち、ありがとう。」自然の教室での生活の中で、子どもたちは小さな成功体験を積み重ね、少しずつ自信をつけていく様子が見られました。

非認知能力の育成には、魔法のような近道はありません。館岩自然の教室と違って、日常では努力がすぐに成果に結びつかないことは多々あります。しかし、目の前の課題に粘り強く取り組み、失敗を恐れずに挑戦し続けることで、やがて大きな成長の芽が出てきます。

今月は、別所フェスティバルという、子どもたち自身が自ら考え、異学年の児童と力を合わせて活動する行事があります。非認知能力を高める、絶好の機会です。今後も、学校では子どもたちの非認知能力を高めるための指導を継続してまいります。御家庭におかれましても、お子様の「なぜ?どうして?」に耳を傾け、小さな頑張りと共に喜び励ましていただきますようお願いいたします。

保護者・地域の皆様、今月も本校の教育活動に御理解と御協力をお願い申し上げます。

*1日(土)学校公開では、多くの地域の皆様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。